

①テーマ

NGUプレゼンツ児童支援施設 Cham



②アイデアのイメージ

チャペルホーム=Cham(ちやむ)
名古屋学院にあるチャペル(又はその周辺の場)が隣人である熱田区の子供たちにとって、**第二の家**のような存在になる。

Chamで出来ること

あそび

相談



いじめや虐待に気づく。親や学校の先生に言えない悩みを相談できる。他愛のない会話をし、安心できる居場所としても活用してもらう。



様々な遊びを行う。(遊び方を教える)

子どものインターネット依存、運動不足を防止する。

食事

敬神愛人

勉強



家庭の金銭的な問題で塾に通いたくても通うことができない子どもや、家に勉強ができる環境が整っていない子どもの支援

ネグレクトによる栄養失調の防止
ヤングケアラーの家事の負担を軽減する。親の仕事などにとる、子どもの孤食を防ぐ。



理不尽な原因による
学力格差を減らす



③アイデアの特徴・メリット

熱田区の課題として、他の区に比べ子ども食堂が少ないことがある。これは児童虐待やヤングケアラーの増加、若者のインターネット依存や運動不足が進行してしまう原因になってしまっているのではないかと考える。そこで、敬神愛人を掲げる名古屋学院大学は、地域の子供たちの第二の家となり子どもたちの心と体の健康を支える存在になる場所になれるのではないかと考える。敬神愛人は「隣人を自分のように愛しなさい」新約聖書マタイによる福音書22章39節では一人では生きていけない人間だからこそ、他者を愛することの大切さを説いている。これは名古屋学院の建学の精神である。

提出者

現代社会

学部

担当

先生

学籍番号/氏名

①テーマ

まちのお年寄りのため！学生による「暮らしのお手伝い」



②アイデアのイメージ

問題点

高齢者の増加

高齢化率は25.8%
さらに独り暮らしのお年寄りが多い



- ・足腰が悪かったりなんらかの障害があったりすると満足な生活が送りづらい
- ・熱田区で開催されている多くのイベントにて参加できない

解決策

学生がサポートを必要とするお宅を訪問

足湯ボランティア

洗濯代行

体力仕事はお任せ！



メリット

体を動かすことが難しいお年寄りの手助けになる

震災時、実際に行われていたボランティア。足湯に浸かってもらいながら手指をマッサージしコミュニケーションを図る

メリット

体が悪く家から出られないお年寄りは人と会話をする機会が減るので話す機会を作るにはもってこい

実現すると

街のお年寄りが熱田区で生活しやすくなるほか、違う世代の人との交流が図れる！学生にとっても、社会貢献のいい機会となる



3つのメリット

名学生の手作りの食べ物をお届け

移動式なのでまんべんなく届けられる



イベント気分を味わえる



学生が主体で行う！

- コスト削減
- 実現しやすい



SNS+チラシ宣伝ターゲットであるお年寄りは、インターネットを使いこなすのは難しい。したがってチラシを配るようにする。SNSでも宣伝をすることで若者との交流も可能になる。

具体的に何をやるの？

名学生が作ったパンや焼き菓子、軽めの食事を車に乗せて熱田区を回る！
また、マイルポストや熱田区の食べ物屋さんの協力を得られるとよりイベントらしくなる！

③アイデアの特徴・メリット

私たちは、熱田区の高齢化率・一人暮らし高齢者の割合の高さに目を向け、熱田区を「お年寄りが住みやすい街」にしたいと考えた。お年寄りは、足腰が悪かったり障害があったりすると生活が不自由になりやすい。また、地域で開催されている多くのイベントに参加することが困難になり、人との交流も自ずと減ってしまいがちである。そこで、本学の学生たちが「暮らしのお手伝い」と称し、街のお年寄りに向け、大きく分けて二つの地域活動をすることを提案した。一つ目は、実際にサポートを必要とするお宅を訪問し、体を動かすことが困難なお年寄りに代わって体力仕事を代行したり、独自の方法でコミュニケーションを図ったりする活動である。そして二つ目は、移動販売で軽食を売り、直接的に食生活をサポートすることで、学生との交流を深める活動だ。どちらの活動も高齢者と若者を繋ぐ架け橋となるほか、暮らしの支えにもなる。したがってこのアイデアは、「お年寄りが住みやすい街」を実現するにはぴったりではないかと考えた。

提出者

現代社会 学部

担当

先生

学籍番号／氏名

①テーマ

歩いて泊まれる!?

NEW

神宮前商店街

夜市も!?

②アイデアのイメージ

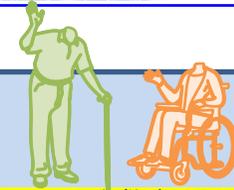
商店街の現状

神宮前商店街は、現在シャッター街となっている。店舗の約8割は、シャッターが下りていて、店舗がつぶれ更地となっている場所も少なくない。しかし、2016年にはおしゃれな喫茶店がオープンし、2018年にはお酒に力を入れた居酒屋がオープンするなど復興の望みもある。



解決策①

「歩ける商店街作り」



歩行者専用道路を設置したり、ゴミ箱やベンチを数多く配置したりすることで、景観を楽しみながら、歩いて商店街巡りをしてもらうための開発を行う。実際に、イギリスのヨークにある商店街が「歩く商店街」開発として、景観や雰囲気重視の開発をしたことで、観光客が増えたという事例がある。参考：[自治体主導の地域活性化：海外の成功事例（イギリス・ヨーク）.html](#)

区民の声

令和4年度にの熱田区民を対象としたアンケートでは、「商店街が古く、廃れた印象になっている。」
「神宮前商店街のあたりは魅力的ではないと思う。」
などといった回答も寄せられ、神宮前商店街の再開発を望む声も数多挙がった。
参考：[熱田区民アンケート.htm](#)

解決策



解決策②

「夜市要素の追加&宿泊施設建設」

店舗の二階などに宿泊施設を作る。それに伴い、夜市の要素を加えたい。昼間に営業している店舗の営業終了後、敷地を夜市営業のために貸し出す。できる限り、毎日営業を目指す。これは、商店街の営業時間が短いという課題の解決にもつながる。具体的な夜市のイメージとしては、台湾の埔里第三市場観光夜市が参考になる。参考：[埔里 第三市場](#)

2F

宿泊施設

1F

(例) 昼：カフェ
夜：酒屋

昼：たい焼き
夜：たこ焼き

メリット

一階は、居酒屋やレストラン等のいわゆる一般的な商店街にし、二階は、民泊としたり、昼間営業していて夜間は営業していない店舗が夜間のみ夜市に出店する店舗に敷地を貸し出したりすることで、
1店舗当たりの土地代や建物代を抑えることが可能である。
このメリットを利用すれば商店街への出店を考える企業も増えるだろう。

③アイデアの特徴・メリット

現在、シャッター街となっている神宮前商店街の再開発を提案する。具体的には、新企業の誘致や歩行者専用道路を設け、ゴミ箱やベンチの数を増やし「歩く商店街」開発によって、集客増を狙う。また熱田神宮付近には、泊まれる場所が少ないという問題点もあるので、商店街の近く、もしくは商店街内に民泊を建設すべきだと考える。それに伴い、商店街に夜市の要素を加えたい。「歩く商店街」は、イギリスのヨークにある商店街が「歩く商店街」開発として、景観や雰囲気重視の開発をしたことで、観光客が増えたという事例を参考に。夜市に関しては、台湾の夜市(埔里 第三市場)などをイメージとして進めていく。これらのアイデアのメリットは、単に商店街の集客増につながるというだけでなく、熱田神宮の集客増にもつながる。また、現在ある店はそのままの形で残し、新たな店舗として居酒屋・レストラン・カラオケなどを誘致することで、熱田区民にとっても便利な商店街となるだろう。そして、一階は、居酒屋やレストラン等のいわゆる一般的な商店街にし、二階は、民泊としたり、昼間営業していて夜間は営業していない店舗が夜間のみ夜市に出店する店舗に敷地を貸し出したりすることで、1店舗当たりの土地代や維持費を抑えることが可能である。このメリットを利用すれば商店街への出店を考える企業も増えるだろう。

提出者

商

学部

担当

先生

学籍番号 / 氏名